

西中の風

継続と徹底

伊丹市立西中学校長

大西 規之

1学期の終業式を行いました

8月31日（月）の6校時に1学期の終業式を行いました。新型コロナウイルス感染予防から全校生徒が体育館に一堂に会することができないため、各教室にディスプレイを置いてZoomで代表生徒の作文と校長の式辞、表彰を行いました。たくさんの表彰がありました。みんなよくがんばりました。

8月31日（月）の翌日9月1日（火）が2学期の始業式となります。2学期のスタートの実感がわかないと思いますが、1学期の通知表も手渡されましたので、心に区切りをつけて9月から頑張ってくださいと思います。

終業式で述べた校長の式辞を記載したいと思います。

< 1学期終業式式辞 >

みなさん、こんにちは。あれだけうるさくないでいたセミの声も聞こえなくなりました。また、連日猛暑日が続いていた天気も朝夕が少し過ごしやすくなり、秋の気配を感じる今日この頃になってきました。

さて、例年の1学期の終業式は7月20日頃に行われますが、今年は新型コロナウイルスの関係で本日8月31日に行うことになりました。このようなことは今後、あまりないことだと思います。例年であれば、「運動部の皆さん市総体、阪神総体ご苦労様でした」とか、「3年生にとってはたいへん重要な夏休みが始まります」などの話をしてきましたが、総体は中止になり短い夏休みも終わってしまいました。

そこで、今日は、校長先生の目にとまった新聞記事を2つ紹介したいと思います。

まず1つ目は、「コロナでいろいろ失ったけれど」というタイトルで、福岡県の小学6年生が書いた記事です。

「僕は新型コロナウイルスのせいで、いろいろなものを失いました。3月に学校が突然休校になり、友だちと会えなくなりました。皆で準備していた「6年生を送る会」もできませんでした。分散登校が始まりましたが、水泳の授業や運動会は中止になると知りました。学童にも行けません。ぼくは一気にコロナが身近になったように感じました。北九州市では5月の終わり頃から感染者が増え始めました。給食は6月に再開予定でしたが、今は取りやめです。6月の献立には、僕の好きな「ナン」があったのに。秋の修学旅行も実施されるかどうか分かりません。残念なことばかりです。でもぼくは「今までの日常が幸せだったんだ」と学びました。これからも手洗いやうがい続け、まず自分がコロナにかからないようにすごそうと思います」

この記事で、先生が感じた言葉は、「今までの日常が幸せだったんだ」ということです。何気なく

過ごしている日常生活、つまり、友だちと会えたり、給食を食べたり、行事をしたり、コロナ禍の中でなければそのありがたみを感じることができなかったことでしょう。だからこそ今、こうして学校生活を送ることができているありがたさを感じ、1日1日を、いや1秒1秒を大切にしたいと思います。

2つ目は、「試合後の涙を一生忘れない」というタイトルで滋賀県の中学3年生女子が書いた記事です。

「7月下旬、2年半続けてきたソフトボール部の活動が終わった。去年の夏、先輩方が引退した後、人数不足のため他校との合同チームとなって、たくさん練習し、試合を重ねてきた。厳しい練習ではあったが、私はよい仲間と共に、励まし合い、充実した部活ができた。去年の秋、県大会出場が決まる大事な試合で私は熱を出してしまった。試合に行けなかった罪悪感と申し訳なさが残ったが、みんな勝って県大会へのバトンをつないでくれた。今年春の大会では少しでも結果を出そうと練習に励んでいた。しかし、コロナ禍で大会は中止。そのまま練習もろくにできないまま、あっという間に夏が来た。このまま引退になってしまうのかと残念に思っていたが、最後に交流試合という機会を設けていただいた。4試合で2勝2敗という結果だったが、悔いは無く、自分にとってとても良い経験になったと思う。試合後、やりきった達成感やいろいろな思いがこみ上げてきて涙があふれた。この夏流した涙を一生忘れないだろう」

3年間続けてきた部活動。厳しい中でも仲間と励まし合った。けれど総体がなくなった。どのような気持ちで引退すればいいのかわからなくなった。かわりに交流大会が開かれ、悔いの無いように頑張った。試合後やりきった達成感で涙があふれた。このような思いをした西中3年生も多いと思います。その思いを胸に、部活動を通じて学びとったことを今後の人生に活かしてほしいと思います。本当にお疲れ様でした。

では、明日からの2学期、いいスタートを切りましょう。これをもちまして、終業式に際しての私からの言葉とします。

（※新聞記事は朝日新聞朝刊から抜粋しました）

